

ホームID	ホーム名		法人名		評価日			
2829	大阪ゆうゆうの里		一般財団法人 日本老人福祉財団		H29.1.6			
評価機関	特定非営利活動法人 あい・ライフサポートシステムズ				H29.2.2			
<b>評価結果</b>								
スケールNo.	自己評価	機関評価	スケールNo.	自己評価	機関評価	スケールNo.	自己評価	機関評価
1.1.1	A	A	2.3.4	A	A	6.2.1	A	A
1.1.2	A	A	2.3.5	A	A	6.2.2	A	A
1.1.3	A	A	2.3.6	A	A	6.2.3	A	A
1.1.4	A	A	2.3.7	A	A	6.2.4	非	非
1.2.1	A	A	2.3.8	A	A	6.2.5	A	A
1.2.2	A	A	2.3.9	A	A	6.2.6	A	A
1.2.3	A	A	2.3.10	A	A	6.2.7	A	A
1.3.1	A	A	2.3.11	A	A	6.2.8	A	A
1.3.2	A	A	2.4.1	A	A	6.2.9	A	A
1.3.3	A	A	2.4.2	A	A	6.3.1	A	A
1.4.1	A	A	2.4.3	A	A	6.3.2	A	A
1.4.2	A	A	2.4.4	A	A	6.3.3	A	A
1.4.3	A	A	2.4.5	A	B	7.1.1	A	A
1.4.4	A	A	2.4.6	A	A	7.1.2	A	A
1.4.5	A	A	3.1.1	B	B	7.2.1	A	A
1.4.6	A	A	3.1.2	A	A	7.3.1	A	A
1.4.7	A	A	3.1.3	A	A	7.3.2	A	A
1.4.8	A	A	3.1.4	A	A	7.3.3	A	A
1.5.1	A	A	3.1.5	非該当	非該当	7.3.4	A	A
1.5.2	A	A	3.1.6	A	A	7.4.1	A	A
1.5.3	A	A	3.1.7	A	A	7.4.2	A	A
2.1.1	A	A	4.1.1	A	A	7.4.3	A	A
2.1.2	A	A	4.1.2	A	A	7.4.4	A	A
2.2.1	A	A	4.1.3	A	A	7.4.5	A	A
2.2.2	A	A	4.1.4	A	A	7.5.1	A	A
2.2.3	A	A	4.2.1	A	A	7.5.2	A	A
2.2.4	A	A	4.2.2	A	A	7.5.3	A	A
2.2.5	A	A	5.1.1	A	A	7.5.4	A	A
2.2.6	A	A	5.1.2	A	A	7.5.5	A	A
2.2.7	A	A	5.2.1	A	A	7.5.6	A	A
2.2.8	A	A	5.2.2	A	A	7.5.7	A	A
2.2.9	A	A	5.2.3	A	A	7.6.1	A	A
2.2.10	A	A	5.2.4	A	A	7.6.2	A	A
2.2.11	A	A	5.2.5	A	A	7.6.3	A	A
2.3.1	A	A	6.1.1	A	A			
2.3.2	B	B	6.1.2	A	A			
2.3.3	A	A	6.1.3	A	A			

【評価機関の所見】	
<b>1. 優れた取り組みと思われる点</b>	
スケール	所 見
1-4-8	消費者保護に係る関係法規について、法人で行う研修の講師が出来る職員が募集を担当しています。指導を行うとともに、以前からのサービス内容や関係書類を見直し、入居希望者の分かりやすい説明を行うことで、納得がいく契約に繋がっています。
2-2-6	入居条件の一つに「契約時に身の回りのことがご自分でできる程度に健康な方」という条件があるため、入居契約時に特定施設利用契約を締結される方はいないが、その内容は十分に説明しています。さらに「介護座談会」を年3回開催して、介護保険や介護サービスの利用などについて説明及び疑問を聞く機会を設ける事で、将来的に介護が必要になった際のサービスの内容などに不安を持たれないような取り組みになっています。
2-3-9	入居者の苦情については、「相談責任者」を8名置く体制をとるとともに、「相談受付票」に記載された苦情がどのように解決に向けて進んでいるかの進捗確認を月1回行い、迅速な苦情解決をするよう心がけています。苦情に対応を処理した記録が時系列にまとめられており、職員同士で情報が共有できるようになっています。また常に職員から入居者に挨拶や声かけをすることで、入居者からも小さな相談でも気軽にできるような雰囲気になっており、あまり苦情とまでは発展していないのが現状です。
4-2-2	アクティビティ一覧が作成され、多種多様なレクリエーションの年間計画が立てられています。入居者の誕生日には、食事部門と生活サービス部門からの企画があり、「お誕生会」の開催や職員の作成した「バースディカード」が贈られ好評を得ています。秋には「一泊ツアー」が実施されていますが、その企画は入居者がミーティングをして候補地を挙げ、投票、結果発表というかたちで行われ、毎回皆さん楽しまれています。また、レクリエーションの実施後にはアンケートを取り、次回に活かされる工夫がされています。
7-5-3	車いすやポータブルトイレなどの福祉用具が必要になった時は、職員がきめ細やかに相談に乗るとともに、選定後も使いやすさはどうかなどモニタリングを行っています。車いすの購入については、入居者の要望や状態に合った物を事業所が負担しています。
<b>2. さらに取り組むことで、より質の向上が可能と考えられる点</b>	
スケール	所 見
2-4-5	自然災害に対する災害対策マニュアルが定められていますが、食料の備蓄が食堂の食材を充てているにとどまっており、ライフラインが止まった時に調理して食事を提供できないリスクが考えられます。できれば、(最低限の)調理を必要としない非常食や水など、備蓄品リストを作成し管理される事を検討されてはいかがでしょうか。